

平成24年 9月 定例会(第308回) 荻田議員

◆二十五番(荻田義雄) (登壇)ただいま、私ども自由民主党改革八名となりまして、民主党と同様に第二会派として頑張っていかななくてはならないという思いを、意を強くしながら代表質問をしてみたいと思います。

リニア中央新幹線の間駅誘致についてであります。

今日の新幹線網は昭和四十三年に二度目の田中角栄自由民主党幹事長の折り、総合的な交通政策の立案担当でありました運輸省原田昇左右氏、初代の運輸省の観光部長であります。後に衆議院議員建設大臣として歴任をされ、その方により三千五百キロメートルの計画案が当時、なされました。その後、田中幹事長は、新幹線は地域開発のチャンピオンであると。その後、一九七二年に内閣総理大臣に就任されるとともに、日本列島改造論の中で、七千から八千キロメートルにすべきだと打ち出し、今日の新幹線網が整備されてまいりました。

昭和四十八年にはリニア中央新幹線の基本計画が策定され、その中では奈良市付近が経路地として定められましたし、JR東海におかれましては中間駅の設置場所につきましては、奈良市、生駒市、大和郡山市、そして天理市各市と周辺市町村を含む範囲と想定をされ、設置案では奈良市付近と明記されたのであります。

さらに、リニア中央新幹線は、現在の新幹線網の代替、特に地震災害に対応するための新幹線の老朽化に伴う事業として、もともとは在来線のルートを活用して、三重、奈良、大阪間を整備していくことと聞いておりました。

県内のルートがどのようなものになるにせよ、それぞれの市が中間駅の誘致合戦を繰り広げるような現状の議論はいかがなものでしょうか。

どの市に中間駅を設置するのがよいかという議論をするよりも、知事が今まで以上に先頭にお立ちをいただいて、県が主導的な立場で中間駅の誘致を、奈良県のよりよい発展のために推進をしていくべきだと私は考えております。

そこで、リニア中央新幹線の間駅誘致についての現在の状況と、今後、どのように進めていこうとされているのか、知事のお考えをお聞かせください。

◎知事(荒井正吾) (登壇)二十五番荻田議員から、幾つかご質問がございました。

リニア中央新幹線の間駅誘致についてのご質問がございました。

リニア中央新幹線は、全国新幹線鉄道整備法に基づき、整備されるものでございますが、整備計画において奈良市付近が主要な経過地として確定いたしました。県としては当然、奈良市付近を通るルートが整備されるものと考えております。また、中間駅につきましては、県内の大和郡山市と生駒市から要望書が知事あてに提出されております。

去る九月十日には、県の今後の取りまとめの参考とするため、リニア中央新幹線をテーマとした、市町村サミットを開催し、市町村長のみならず、国会議員、県議会議員、市町村議会議員の皆様にもご出席をいただき、両市の駅誘致の考え方を聞いていただき、意見交換を行いました。

建設営業主であるJR東海は、昨年十一月に中間駅の建設費は自社負担とすることを表明するとともに、県に対しまして、地元自治体の取りまとめ、また、中間駅の設置についての協力についての要請がございました。

今後、客観的なデータの積み重ね、県下の各市町村の意見もいただき、広く県民のコンセンサスを得て、県としてのリニア中央新幹線奈良駅の候補地を決定していきたいと考えます。

そのため、JR東海には環境アセスメントの手續に早期に着手することを強く要望してまいるとともに、リニア中央新幹線がもたらす便益が、県内や紀伊半島地域へ広く均てんされる場所に駅位置が早期に確定され、将来にわたって奈良市の観光振興、文化振興、地域活性化

平成24年 9月 定例会(第308回) 荻田議員
に大きく寄与するよう、最大限の努力をしてみたいと思っております。